

タウンミーティングでいただいた皆様からのご意見・ご提案等

●備前地区（参加者数：27人）

- 備前中学校の統合実績をモデルに、先人が決断した広域的な統合による効率化と、地域づくりの経験を共有すべき。市民全体で備前市を考える視点が重要である
- 財政が意外と悪くないという現状と、市民の「財政が悪い」という意識のミスマッチがある。財政が悪くなる前の今こそ、大きな決断が市民に受け入れられるチャンスではないか。
- 公共施設更新費用の試算について、過去の支出実態に基づいた詳細な数字が知りたい。
- 各地域で公共施設を使い活かしていくことを考えましょう。
- 地区ごとに良いところがある。パッチワークのようにそれを貼り合わせ、唯一無二のまちを作るべき。学校・病院・公共施設を地域で共有し、公共交通で繋ぐ考え方を推進すべきである。
- 非常に厳しい意見を申し上げますが、40年経過した建物は処分が必要な時期に来ている。美しい言葉で飾らず、ダウンサイジングに向けた勇気ある決断をすべきである。
- 総合計画の内容が市民に周知、理解されていない。まず計画を分かりやすく説明し、まちの方向性を共有すべき。
- 「賢い縮み方」という考え方を市民はまだ選んでいない状態です。利用者としては残してほしいと願うでしょうし、閉じていくという考え方と両方混在している。まだ山すら見ていない状況ではないか。
- 2050年の約人口1万5千人という人口予測の規模を想像し、見据えた施設利用をより細かく分類して考えるべき。箱モノの議論だけでなく、社会のデジタル化や地域特性、さらには「この会議室がなくなったらどこで議論するのか」といった具体的な代替案も含めた検討が必要である。
- 提示されるデータが数字の羅列で分かりにくい。どこが大切なのか、何が課題なのかを市民が理解できるように、もっと具体的に知らせるべきである。本当に財政健全なのか、市民は幸せなのか、税金の使途は使われるべきところに使われていたのだろうか。
- 公共施設をどうするかという前に、まずは「備前市として何をしたいのか」という目的を明確にすべきである。目的をはっきりさせて、この市民センターを残すにしても、そこでみんながどんな使い方をしていくのか、というところをしっかり話をしていくところが大切だと思った。
- 子どもたちに将来の備前市に残ってほしいと言っても残ってくれないのでは

ないかと懸念している。

- 市民の声が市役所に届きにくいと感じている。
- パブリックコメントを出しても反応がなかった経験がある。市役所には、意見に対して個別に回答・レスポンスを返すような「双方向の対話」を強く求める。
- 今回のタウンミーティングの周知不足（三村先生が来られること、告知が締切直前）に対する強い不満感がある。広報だけでなく、学校メールなど保護者世代に届く周知方法をとるべきである。
- パブリックコメントですが、庁舎建設の際には丁寧に対応してもらった。今後も市民一人一人に対応してほしい。若い人の声をもっと聴いてほしい。

●日生地区（参加者数：22人）

- 市側が「利用頻度が低い」ことを理由の一つとして修繕に消極的な姿勢を見せているが、エアコンが壊れているから使いたくても使えない。その結果、利用者が減っている。管理不備によって市民が文化に触れる機会が損なわれている。
- 合併協議の際に交わされた病院の建替えの約束が、方針転換によって守られず、赤字経営となっている。
- コンサートが行われた際、あまりの寒さに演者と観客は震えるような状態だった。
- 美術館、ビーテラス、新図書館の建設、備前丸（船）等の新しい施設や事業が次々に行われるが、将来的にそれらの維持管理費用や運営費用が一体どれくらいになるのか。また、新施設はスリム化を図ってほしい。
- 30億円を超えるような新しいものを作る一方で、なぜ必要な修繕をしないのか。
- 人口減少が避けられない中、賢くダウンサイジングしていかなければならないことは理解できる。もちろん市民理解を得てということが大前提だ。
- 日生市民会館は残してほしいが、先週のタウンミーティングで議論があった市民センターの役割を考えていく上で、仮に日生地区に賢くホール（音響）機能を集約していくことも、選択肢として市民合意が得られればと考える。
- 他市で文化施設での勤務経験から、少しでも利用率を上げていくために積極的な営業活動を行って、95%から98%に向上させた。待ちの姿勢でなく積極姿勢で臨んだ。
- 日生市民会館ホール空調が約8年前から故障したまま放置されている一方で、新しい図書施設や美術館等に多額の予算が投じられていることは、順番が違うのではないか。
- 新しいものを作る割に古いものが放置されている。
- 投資が市役所周辺（備前地区）に集中しており、周辺地域（日生、吉永など）

の施設は切り捨てられ、真ん中だけが手厚くなっている。

- ダンスや太鼓などの団体は、窓を閉め切った中で汗だくになりながら活動しており、「いつか誰かが倒れるのではないか」と健康被害（熱中症など）を危惧している。
- 長期休暇中に子ども達が集まって課題や体験活動、部活動をする場としても、空調の故障が大きな妨げになっている。
- 公民館の備品（卓球のラケットは持ち込み）が揃っていないなど、子ども達も使いにくいので利用しようとしにくい。
- 公民館の利用登録ルールが厳しすぎる。子供が気軽に立ち寄れる場所になっていない。
- 太鼓活動の普及を図る上でも、営業活動やイベントを考えるが、エアコンが修繕されないと活動や地域活性化に繋がらない。
- 新図書施設に設置されるホールの収容人数（300人）について、300人を超える規模の催しには対応できない。
- 市民センターは代替可能だと考える。跡地は不足している駐車場として、日生市民会館は改修が望ましいと考える。
- この施設をあと何年使うのかと整理し、また施設を個で見るのではなく、学校や病院を含めた横断的な視点で考えていくことも大切だと考える。
- 必ずしも新しい豪華な施設を求めているわけではなく、今ある施設を、普通に使える状態で維持してほしい。
- 先週のタウンミーティングに参加した。発言や発表はしにくい。もっと気軽にお菓子などを食べながら話し合いができれば良いと思う。発言が間違ってもいいし、何でも話しができる機会が欲しい。

●吉永地区（参加者数：25人）

- 「いらないもの（箱物）」を優先的に建設している一方で、吉永地区などの端の方にある老朽化した施設の修繕（エアコンの故障など）に、予算が回ってこないことへの強い不満がある。
- 「ピーテラス（アルファビゼン）」のように耐用年数（目安として60年）が迫っている施設を維持し続ける計画に妥当性はあるのか。
- 中心地ばかりに施設が集中している。
- 財政に余裕があるうちに、多額の費用をかけて現在の施設を修繕し続けるのか、あるいは複合化や集約化を図るのかという市の「戸惑い」に対し、「やる時はやらなきゃいけない」のではないかと考える。
- 公共施設の床面積を40年で40%削減するという目標について、数値ありきで議論が進んでいるのではないかと考える。面積の大きい学校などを統合・廃止すれば

目標達成は容易になるが、それでは地域が立ち行かなくなるため、分野別に目標を設定すべきだ。

- 劇団のホームグラウンドとして利用しており、吉永の方に見ていただくには他の場所（市中心部など）へは足を運べないという声を聞いている。
- 「ねこめし」、味噌づくりなどの伝統的なものづくりを行う活動場所をなくさないでほしい。もっと朝早くから利用させてほしい。
- 単なる維持管理ではなく、多世代が交流できる場所・機会や、若者が自由に来られるような場所、災害時にコミュニケーションが取れる場としての活用を求める。
- 施設の統廃合は止むを得ないが、施設が遠くなることで通えなくなることを防ぐため、公共交通機関（バスや乗り合いタクシーなど）の整備をセットで考えるべきだ。
- タウンミーティングの配置で職員が後ろに座っていては対面で話ができない。学校のような一方的な説明形式ではなく、円卓などの話しやすい環境を求める。
- これまでの計画策定において、市民の思いを反映させる時間やスケジュールが不足していたのではないか。
- 「数値」だけでなく、市民の「満足度」や「ワクワク感」といった指標も大切にしてほしい。
- 特定の施設（市民センターなど）の修繕の是非だけでなく、病院、学校、インフラ維持、公共交通など、市全体のランドデザインの中で最適化を図らなければ、将来的に歪みが生じるのではないか。